

main contents

- 2・news file ○○○○○○○○○○ 他
- 3・news file ○○○○○○○○○○ 他
- 4・focus ○○○○○○○○○○
- 6・landscape ○○○○○○○○○○
- 8・series ○○○○○○○○○○

発行責任者/山浦康明
 発行所/特定非営利活動法人 日本消費者連盟
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19-207
 tel 03 (5155) 4765 fax 03 (5155) 4767
 E-mail:office.j@nishoren.org http://nishoren.net/
 定価/1部500円(年間購読料12,000円)
 会費/年間7,000円(購読料を含む)
 郵便振替/00130-0-22957

hot news

11月24日、埼玉県吉川市にて

水道水にフッ素はいらない！ 科学的根拠は明白

— 日本フッ素研究会の 講演会・集会にご参加を

日本フッ素研究会は2013年11月24日、埼玉県吉川市で「水道水フッ素化に反対する科学的根拠」の講演会と集会を開催します。午前の部は水道水フッ素化に反対する科学的根拠について、ニューヨーク前セントローレンス大学教授のポール・コネット氏に講演していただきます。午後にはフッ素とアレルギー、歯フッ素症などの報告が予定されています。

なぜ、吉川市で集会？

吉川市では2001年から虫歯予防のための水道水フッ素化の検討を始め、2011年までの調査研究を受けて2012年ごろから実施する予定でしたが、「子どもの歯と健康を考える会」などの市民グループが、今年8月末に市長へ約7500筆の反対署名を手渡すなどの根強い反対運動を続け、何とか実施されずにいます。

吉川市はフッ素化を強く推進してきた近隣歯科大学予防歯科の影響下にあり、また熱心な推進歯科医たちがいます。かつてGHQの圧力により全国数ヶ所でフッ素化が検討された際、旧与野市など埼玉県南部にも水道水フッ素化の計画がありました。

水道水へのフッ素添加は、日本では京都山科地区(11年間・1952～1963)と三重県朝日町

(3年9ヶ月・1967～1970)にて、0.6ppmという濃度で実験され、また米国統治下にあった復帰以前の沖縄県でも実施されましたが、現在フッ素化している地区はありません。2000年以後、県市町村議会での相次ぐフッ素化決議やフッ素化が計画されましたが、住民の反対運動でことごとく消滅してしまっています。しかし、2010年にフッ素

応用を担保する歯科口腔保健法が成立して以後は、全国どの地区でもフッ素化が始まってもおかしくありません。

環境化学と毒性学専門家 による米国最新フッ素事情

講師のポール・コネット氏は英国のケンブリッジ大学を卒業、ニューヨークのセントローレンス大学で環境化学と毒性学を専門として2006年に教授を退職しました。25年間ダイオキシンのごみ問題に専念し、1996年に妻のエレンとフッ素について議論をして以来、フッ素の毒性と水道水フッ素化問題に17年間取り組んでいます。それまで、米国にはびこっている「フッ素化に反対する連中は誤った科学を信じている」という考えを受け入れていました。その後認識を劇的に変え、現在フッ素ネットワーク(Fluoride Action

Network, Fluoride Alert Org.)の責任者を務めています。2001年に来日し、日本フッ素研究会で講演をしています。米国では児童の41%が歯フッ素症に罹患し、環境保護庁は2011年1月フッ素濃度を1ppmから0.7ppmに下げよう指示しました。フッ素は虫歯予防の効果がないばかりか、IQ低下やがんの増加、甲状腺機能低下、骨折などさまざまな障害を引き起こし、タンパク合成や遺伝子を障害します。これらの細胞間シグナルを阻害する事実は、この10年間に解明されてきたばかりです。

今回の講演は日本フッ素研究会、子どもの歯と健康を考える会との共催であり、財団法人大竹財団の助成を受け開催されます。(日本フッ素研究会評議員 秋庭賢司)

「水道水フッ素化に反対する科学的根拠」講演会と集会

11月24日(日) 10～15時
 講師 ポール・コネット博士
 会場 埼玉・吉川市中央公民館
 (JR武蔵野線吉川駅よりバス)
 参加費 無料(予約不要)
 主催 日本フッ素研究会
 共催 子どもの歯と健康を考える会